

聴講者のアンケート集計結果

1. アンケートの方法

講演会当日に、会場入口にて、配付資料とともに、アンケート調査票「特別講演会アンケートのお願い」を配布し、講演会終了後、会場出口の脇に設置したアンケート回収箱にて回収した。総回答数は83で、およその参加者110人に対する回答率は75.5%である。

2. アンケート票

おもて面

平成 24 年 10 月 13 日

福井県立大学九頭竜川プロジェクト

特別講演会アンケートのお願い

本日は、福井県立大学 20 周年記念事業 特別講演会「九頭竜川 探求の旅」にご参加いただき誠にありがとうございます。

今後の参考とするため、以下のアンケートにご協力下さいますようお願い申し上げます。

問 1 今回の企画を何（どこ）でお知りになりましたか（複数回答可）。

- | | | |
|--------------|-----------------------|------------|
| 1. 本学ホームページ | 2. 今回の特別講演会広報チラシ、ポスター | |
| 3. 本学のパンフレット | 4. 新聞 | 5. テレビ・ラジオ |
| 6. 知人、友人等 | 7. その他（ ） | |

問 2 あなたはこれまでに本学主催の公開講座や講演会等に参加されたことはありますか。

1. 過去に参加したことがある⇒その頻度は（1. 5 回以上、 2. 3～4 回、 3. 1～2 回）
2. 今回初めて参加

問 3 本日の 3 つの講演について、以下の項目について評価をお聞きます。区分ごとに回答欄の該当するもの 1 つに○をつけてください。

1) 各講演の内容について、ご理解の状況はいかがでしたか。

区分	回答欄
1. 講演 1 「サクラマスが教えてくれたこと」	1. よく理解できた 2. おおむね理解 3. 難しかった
2. 講演 2 「歴史のなかの九頭竜川」	1. よく理解できた 2. おおむね理解 3. 難しかった
3. 講演 3 「川とのつきあいー技術と思いー」	1. よく理解できた 2. おおむね理解 3. 難しかった

2) 各講演をお聞きになり、その満足度はいかがでしたか。

区分	回答欄
1. 講演 1 「サクラマスが教えてくれたこと」	1. 満足 2. おおむね満足 3. どちらともいえない 4. 物足りない
2. 講演 2 「歴史のなかの九頭竜川」	1. 満足 2. おおむね満足 3. どちらともいえない 4. 物足りない
3. 講演 3 「川とのつきあいー技術と思いー」	1. 満足 2. おおむね満足 3. どちらともいえない 4. 物足りない

問 4 本学がはじめて取り組んだ今回の特別講演会の企画について、全体としてみた評価をお聞きます。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 大変良かった。 | 2. おおむね良かった。 |
| 3. どちらともいえない。 | 4. 物足りなかった。 |

（裏面にもあります）

問 5. 今回は時間の関係で講演会の形をとりましたが、今後について、どんな形を希望されますか。あてはまるものすべに○をつけてください。

1. 講演会+シンポジウム形式 2. 聴講者参加型のワークショップ形式
3. 現地見学 4. その他 ()

問 6. 特別講演会の背景として九頭竜川流域に関する情報パネルを会場前のアトリウムにて展示しています。ご覧いただけましたか。(掲示は 10 月 13~14 日の両日のみ)

1. 見た。 2. 後で見たい。 3. 見たいが、見る時間がない。 4. その他 ()

問 7 「九頭竜川 探求の旅」(九頭竜川プロジェクト)は、来年以降も継続していく予定です。今後とりあげてほしいテーマ、その他ご意見があれば、自由にご記入ください。

問 8 次年度以降の「九頭竜川 探求の旅」講演会やシンポジウムについてご参加の意向をお聞きます。

1. 今後も是非参加したい。 2. 興味あるテーマであれば参加したい。
3. その時になってみないとわからない。 4. いまのところ参加はむずかしい。
5. その他 ()

問 9 最後に、あなたご自身のことについてお聞きます。

1) 性別

1. 女性 2. 男性

2) 年齢は?

1. 19 歳以下 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代
5. 50 歳代 6. 60 歳代 7. 70 歳以上

3) お仕事は?

1. 学生 2. 会社員 3. 公務員等 4. 会社経営者・管理職 5. 自営業・自由業
6. 大学・高専・小中高教員、研究員 7. 無職 8. その他 ()

4) お住まいの地域は?

1. 福井県内⇒市町名 ()
2. 福井県外⇒都道府県名 ()
3. その他 ()

ご記入有難うございました。

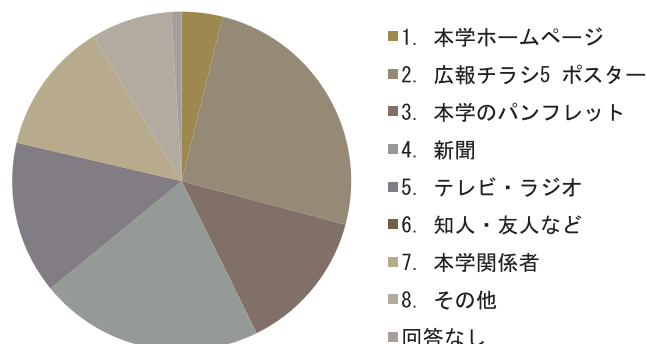
出入口付近にあるアンケート用ボックスに投函をお願いします。

3. アンケート結果

1. 参加のきっかけ

	回答数	割合
1. 本学ホームページ	4	3.9%
2. 広報チラシ、ポスター	26	25.2%
3. 本学のパンフレット	14	13.6%
4. 新聞	22	21.4%
5. テレビ・ラジオ	15	14.6%
6. 知人・友人など	0	0.0%
7. 本学関係者	13	12.6%
8. その他	8	7.8%
回答なし	1	1.0%
合計	103	1

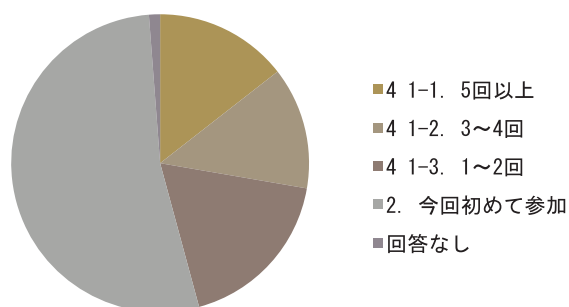
図1. 参加のきっかけ



2. 過去の公開講座などへの参加

	回答数	割合
1. 過去に参加したことがある	38	45.8%
1-1. 5回以上	12	14.5%
1-2. 3~4回	11	13.3%
1-3. 1~2回	15	18.1%
2. 今回初めて参加	44	53.0%
回答なし	1	1.2%
合計	83	100.0%

図2. 過去の公開講座への参加



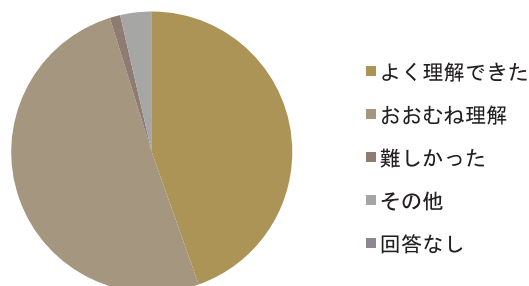
3 本日の講演の評価

3-1. 各講演内容の理解

講演1 サクラマスが教えてくれたこと

	回答数	割合
よく理解できた	37	44.6%
おおむね理解	42	50.6%
難しかった	1	1.2%
その他	3	3.6%
回答なし	0	0.0%
合計	83	100.0%

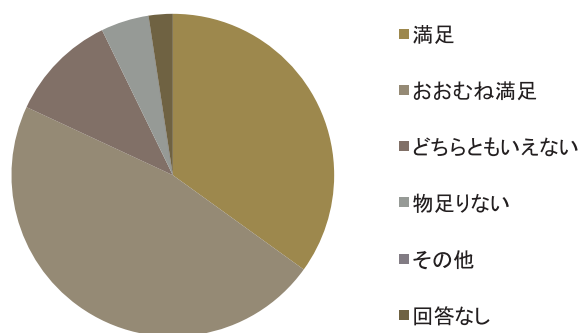
図3-1-1. 講演1の理解



講演 3 川とのつきあい

	回答数	割合
満足	29	34.9%
おおむね満足	39	47.0%
どちらともいえない	9	10.8%
物足りない	4	4.8%
その他	0	0.0%
回答なし	2	2.4%
合計	83	100.0%

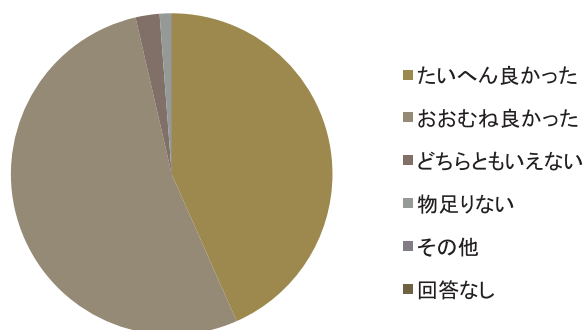
図3-2-3. 講演3の満足度



4. 全体としての評価

	回答数	割合
たいへん良かった	36	43.4%
おおむね良かった	44	53.0%
どちらともいえない	2	2.4%
物足りない	1	1.2%
その他	0	0.0%
回答なし	0	0.0%
合計	83	100.0%

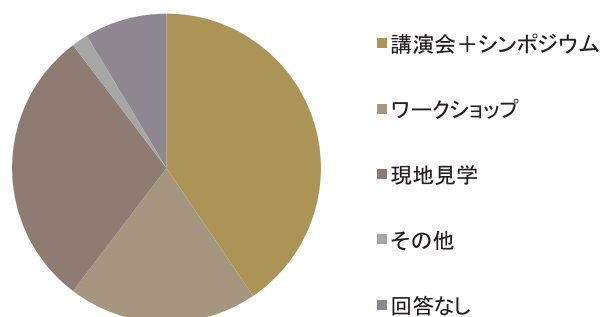
図4. 全体の評価



5. 今後の形式

	回答数	割合
講演会+シンポジウム	47	40.5%
ワークショップ	23	19.8%
現地見学	34	29.3%
その他	2	1.7%
回答なし	10	8.6%
合計	116	100.0%

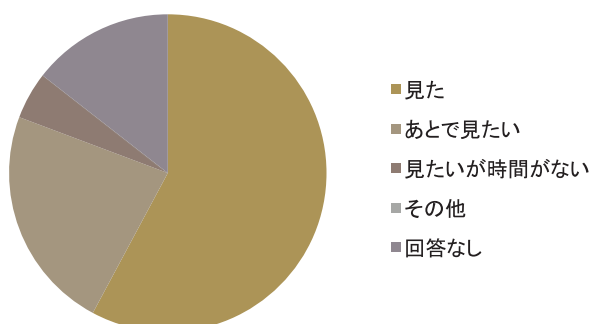
図5. 今後の形式



6. パネル展示

	回答数	割合
見た	48	57.8%
あとで見たい	19	22.9%
見たいが時間がない	4	4.8%
その他	0	0.0%
回答なし	12	14.5%
合計	83	100.0%

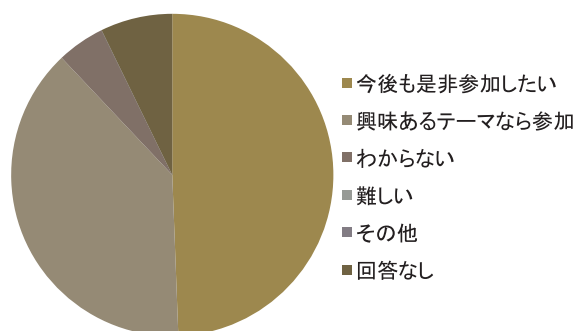
図6. パネル展示



7. 次年度以降の参加の意向

	回答数	割合
今後も是非参加したい	41	49.4%
興味あるテーマなら参加	32	38.6%
わからない	4	4.8%
難しい	0	0.0%
その他	0	0.0%
回答なし	6	7.2%
合計	83	100.0%

図7. 次年度以降の参加の意向

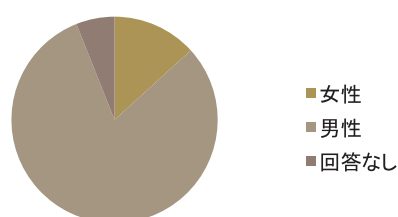


8 属性

8-1. 性別

	回答数	割合
女性	11	13.3%
男性	67	80.7%
回答なし	5	6.0%
合計	83	100.0%

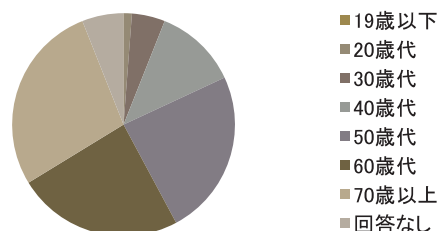
図8-1. 性別



8-2. 年齢

	回答数	割合
19 歳以下	0	0.0%
20 歳代	1	1.2%
30 歳代	4	4.8%
40 歳代	10	12.0%
50 歳代	20	24.1%
60 歳代	20	24.1%
70 歳以上	23	27.7%
回答なし	5	6.0%
合計	83	100.0%

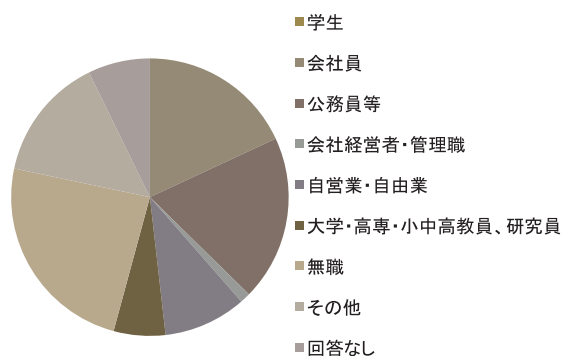
図8-2. 年齢



8-3. 仕事

	回答数	割合
学生	0	0.0%
会社員	15	18.1%
公務員等	16	19.3%
会社経営者・管理職	1	1.2%
自営業・自由業	8	9.6%
大学・高専・小中高教員、研究員	5	6.0%
無職	20	24.1%
その他	12	14.5%
回答なし	6	7.2%
合計	83	100.0%

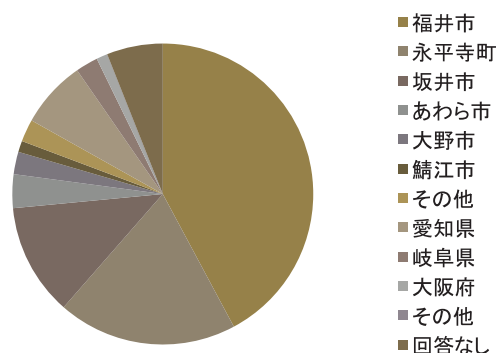
図8-3. 仕事



8-4. 住所

	回答数	割合
福井県内	69	83.1%
福井市	35	42.2%
永平寺町	16	19.3%
坂井市	10	12.0%
あわら市	3	3.6%
大野市	2	2.4%
鯖江市	1	1.2%
その他	2	2.4%
福井県外	9	10.8%
愛知県	6	7.2%
岐阜県	2	2.4%
大阪府	1	1.2%
その他	0	0.0%
回答なし	5	6.0%
合計	83	100.0%

図8-4. 住所



4. 自由回答

今後とりあげてほしいテーマ、その他の意見を自由に記入いただいたものを、カテゴリーごとに分けて整理した（43 名が記入）。

今後取り上げて欲しいテーマ

a) 自然・生態系（16）

- ・ 未来に残していかななくてはならない生態系の保全に関するテーマ。源流から河口までのつながり
- ・ 川の汚染・・・その浄化は？
- ・ 川の自然（ホタル等）の再現は？
- ・ 生物資源学部での川の生物の研究・調査
- ・ 流域各地への影響、特に環境の移り変わり
- ・ 川の四季
- ・ 環境の方面から水質の分析検査に基づく改善対策についての川の管理者、自治体、関係団体、住民をまじえたシンポジウム
- ・ 九頭竜川に住む魚類を出来るだけ多く紹介、説明してほしい
- ・ 四季の変化を通じた景観、写真をみたい
- ・ 源流をつき止める現地踏破を求めます。源流は2～3箇所あるはず
- ・ 環境を守るために何が出来るかをもっと具体的に検討する。特にアユ釣りシーズン
- ・ サクラマス生態をもっと詳しく知りたい
- ・ 河川の生態系・・・サクラマス以外の魚類、鳥類、昆虫、植物
- ・ 外来種の影響（魚類、植物、昆虫）と対策
- ・ 動的平衡で成り立っていたかつての河川環境を取り戻すために何ができるか。何をすべきか
- ・ 河川環境を維持していくための今後の取り組み（樹林化、温水、流量不足、生態系、景観、親水空間など）

b) 歴史 (16)

- ・ 歴史上のかかわりを具体的に調査されたことをテーマに
- ・ 歴史 (川と人の暮らしのかかわり、変遷)
- ・ 歴史との関連
- ・ 長良川 (三重県長島) の様に輪中のような場所が福井にも存在したのか。また、その中での生活はどのようなものだったのか
- ・ 中央 (京都など) と福井 (越前) の関係は
- ・ 本願寺 (浄土真宗) の越前におけるネットワークはどのようなものだったのか
- ・ 北前船と福井
- ・ 歴史と民俗の融合したもの
- ・ 古墳と九頭竜川の関係について
- ・ 取り上げてほしいテーマは、「歴史から見た九頭竜川」をもう少し詳しく
- ・ 継体天皇の足跡や泰澄大師の足跡をたどり、それ以前の古代の越の国の全貌にせまってほしい
- ・ 上流部で昭和40年代に多くの村が廃村になったその歴史的な背景は何か (廃村となっていた理由など)
- ・ 石川県と一向一揆等を取り上げると朝倉氏、平泉寺とのつながりが出てくる。その中心に位置するのが藤島中郷地区であり丸岡地区である
- ・ 当時の九頭竜川地形図等はその戦い (九頭竜川の戦い) 等を説明するのに必要である
- ・ 古墳時代も史蹟がいくつかありこの検証にも役立つと思う
- ・ 時代的な地勢図、川の流れ通路

c) 民俗 (10)

- ・ 福井県の民謡、音楽に関するもの
- ・ 川と集落の生活
- ・ 中世の九頭竜川域の風俗、まつり
- ・ 歴史と民俗の融合したもの
- ・ 川と生活→民俗に関するもの
- ・ 九頭竜川の源流の人々の暮らしについても知りたい
- ・ 川の近辺に居住してきた人の川へのかかわり方など
- ・ 上流、中流、下流における各々の川との「関わり方」
- ・ 川の石の利用 (平泉寺の石組みが日本で最古?、豊原寺は? 古墳に利用?)
- ・ 石組の技術の伝習、朝倉氏、下城戸の石組 (平泉寺)

d) 産業 (7)

- ・ 良質の水と産業 (日本酒なども含め) との関連
- ・ 農業 (治水)
- ・ 農業との関わり
- ・ これからの川利用と観光
- ・ 九頭竜川の川漁 (川漁師による講演)
過去の漁法 (現在も含めて)、季節による魚種の違い、現在と過去の魚種、経済的な状況等
- ・ 伝統漁法について取り上げてほしい

e) 治水、利水 (3)

- ・ 治水と政治、行政
- ・ 治山、治水、ダム、湖

- ・ 河川工学、水理学から見た九頭竜川、河川特性の変化

f) 文学・宗教文化 (3)

- ・ 古い歴史ー古典、説話など文学的に取り上げてほしい
- ・ 川とのつながり、宗教とのかかわり
- ・ 九頭竜川流域の宗教文化

g) 地域の活動 (3)

- ・ ドラゴンリバー交流会など流域内に既にあるサークル等の発表
- ・ 流域には多くの河川、水環境等に活動している団体が多くあります。その連携が出来ればと思います
- ・ 多くの方に呼びかけた清掃活動など

その他の要望・感想

- ・ その年のテーマに合う活動を紹介してほしい。それぞれの人々が交流できる様になれば良いと思う。ただし、利害の絡むことはNG。歴史的な部分は良いが、現状でのものはNG。問題提起としては大いにやっていく必要あり。
- ・ 九頭竜川プロジェクトの目的に賛成。今後も幅広い講演が数多く開かれることを希望。
- ・ 開催場所は今回同様、県大のキャンパスがよい。アカデミックな雰囲気だから。
- ・ 福井の特質を浮かび上がらせるテーマとして「九頭竜川」＝「水」はとても有意義だと思います。
- ・ 今回みたいに2つ、3つのテーマを決めてやってほしい。地元にて初めて入った県大、広いですね。
- ・ 出入り含めて「30 分×3 人」は時間的にキツイのではないか。「45 分×2 人」くらいが適当だと思います。
- ・ 各講演は時間がなかった。次年度は内容をしばって少々ほりさげた講演内容にしてほしい。
- ・ 短期目的と長期目的を分けてもっと絞るべきでは？
- ・ プロジェクトの内容や記録、関連する論文や資料を定期の刊行物として雑誌化もしくはブックレットなどを作るとよいと思います。HPでのPDFデータのアップなど
- ・ しっかり継続していただきたい。
- ・ 九頭竜川の生き物、歴史などが身近に感じられた。百科事典を読み返すキーワードが無限に見つかった気がする。河川敷でのグランドゴルフや折々の写真風景がより楽しくなりました。

展示パネルリスト

2012/10/9

パネル	図	タイトル	出所	管理番号	資料集掲載頁
1)		九頭竜川流域の概要(1)		120001	
	1	地質時代区分と福井平野	国交省福井河川国道事務所提供資料		P23
	2	九頭竜川流域の地形図	国交省福井河川国道事務所提供資料		P24
	3	水系流域図	九頭竜川流域誌		P25
2)		九頭竜川流域の概要(2)		120002	
	4	現存植生図	九頭竜川流域誌、原典：環境省調査		P26
	5	流域の自然			P27
3)		九頭竜川のすがた		120003	
		九頭竜川の形			
	6	主要河川と流域面積と幹川流路延長	九頭竜川流域誌		
	7	主要河川の縦断形	九頭竜川物語		
		九頭竜川の水位と周辺の土地の関係			
	8	福井平野と主要河川の関係	九頭竜川流域誌		
	9	横断図の位置	九頭竜川流域誌		
4)		九頭竜川の治水・利水の歴史		120004	
	10	大きな水害と治水・利水の対応表	九頭竜川物語		
5)		九頭竜川の河道変遷		120005	
	11	500年前の九頭竜川流路	九頭竜川流域誌		
	12	明治期の改修工事	九頭竜川流域誌		P28
	13	五領ヶ島地区の改修	九頭竜川流域誌		P28
6)		九頭竜川の用水		120006	
		最初の用水開削			
	14	鳴鹿の堰	「図説福井県史」		
	15	十郷用水	「図説福井県史」		
		鳴鹿堰堤～鳴鹿大堰			
	16	九頭竜川水系土地改良区と用水路	農水省北陸農政局		P29
7)		九頭竜川での舟運		120007	
	17	九頭竜・足羽・日野川等の舟運路	九頭竜川流域誌		P30
		九頭竜川中流の船(写真)			
	18	三国湊と北前船の航路	九頭竜川流域誌		
		北前船(写真)			
	19	越前の船渡場	九頭竜川物語		P31
8)		空からみた九頭竜川と地域(空中斜写真、9点)	国交省福井河川国道事務所提供	120008	
9)～14)		サクラマスから学ぶ(1)～同(6)	サクラマスレストレーション製作	120009～14	P3～8
15)		越前三大川沿革図(九頭竜川)	松平文庫絵図		
16)		鳴鹿大堰の樋埋仕立の図	あわら市 大連勘次氏蔵		

文化 歴史 生態

九頭竜川 多角的に研究

県立大20年で記念事業

県立大は創立二十周年を記念して、九頭竜川を主題に学問の領域を超えて研究する「九頭竜川プロジェクト」を立ち上げた。県内を流れ、福井の象徴ともいえる九頭竜川を、さまざまな角度から研究する取り組みで、旗揚げ行事として十三日に特別講演会「九頭竜川 探求の旅 ひと・歴史のつながり」を求めて、永平寺町松岡兼定島の県立大福井キャンパスで開く。

九頭竜川は、流域面積二千九百三十平方キロで、県の面積の約七割を占める、県を代表する川。県立大福井キャンパスが九頭竜川の間に立地することもあり、記念事業の対象として選んだ。

プロジェクトでは、流域の文化や歴史、生態系などの研究を統合する場を県立大が担い、在野の研究者や既存の学会との連携も目指す。講演会などの行事は毎秋開いていく。十日に県庁で記者会



九頭竜川プロジェクトの展開を説明する県立大の北條蓮英教授＝10日午前、県庁で

てくるサクラマスが大切にするなど、具体的に川とかかわる場をつくりたい」と話した。特別講演会は十三日午前10時正午で入場無料。サクラマスが自然に再生産するよう活動しているグループ「サクラマスレストレーション」の安田龍司代表と、福井大の松浦義則名誉教授、県立歴史博物館の元館長坂本育男さんの三人が講演する。問い合わせは県立大大学戦略室＝電話0776（61）6000へ。

県立大「九頭竜学」構築へ

20周年でプロジェクト

県立大は、今年の創立20周年を機に「九頭竜川」をテーマに、同大看護福祉学部の北條蓮英教授が日頃、県庁でこの連携プロジェクトの立ち上げや成果発表の場を設け、流域の歴史や文化、生態系などをめぐる進捗中、「自分たちの立脚点」を九頭竜川を通して見、個別の研究や活動をつなぐことを進める。

流域の研究、活動成果集約

13日、特別講演会で始動

の相互作用に結びつけていきたい」としている。13日の特別講演会は同大学祭に合わせて開催。サクラマスレストレーションの安田龍司代表がサクラマスが教えてくれたことと、福井大の松浦義則名誉教授が「県史の中の九頭竜川」、県立歴史博物館の坂本育男元館長が「川とのつきあい」技術と歴史を語り、講演する。午前10時開演。問い合わせは同大大学戦略室＝電話0776（61）6000。

福井新聞 2012年10月11日掲載

九頭竜川研究が始動

県立大 創立20周年記念事業

県立大が創立20周年を記念し、学部の垣根を越えた研究「九頭竜川プロジェクト」をスタートさせる。13日午前10時から、永平寺町松岡兼定島の同大福井キャンパス共通講義棟1108教室で特別講演会を開く。サクラマスの産卵場作りなどに取り組む市民団体代表の安田龍司さんや、九頭竜川の歴史を研究している松浦義則・福井大名誉教授らが講演する。

プロジェクトでは、県内最大の九頭竜川と人々の暮らしとの関係に様々な学問分野から迫り、体系化する。講演会で司会を務める看護福祉学部の北條蓮英教授（まちづくり論）は「これからの県立大の核となる事業に育てたい」と話す。北條教授によると、九頭竜川は古墳時代に石棺を運ぶなど、長い間水運に利用されてきた。はらんを繰り返した歴史から、河川工

学の点でも多くの研究成果を残している。県内の河川の約7割が九頭竜川水系で、生活史の面でも研究の蓄積があるという。しかし水系全体の包括的な研究はされてこなかった。今後少なくとも年1回は学際研究の集会を開き、報告書を発行する予定。13、14両日は経済、生物資源、看護福祉の各学部と学術教養センターも、それぞれの20周年を記念したシンポジウムを開く。問い合わせは同大（0776・61・6000）。詳細はホームページ（http://www.tpu.ac.jp）。（高橋玲央）

日刊県民福井 2012年10月11日掲載

朝日新聞 2012年10月11日掲載

九頭竜川 分野超え研究

県立大20周年 13日に特別講演会

県立大は創立二十周年 歴史の「つながり」を 存の学会との連携も目 年を記念して、九頭竜 求めて」を永平寺町の 川をテーマに学問の領 県立大福井キャンパス 域を超えて研究する で開く。

「九頭竜川プロジェクト」を立ち上げた。旗 流域の文化や歴史、生 揚げ行事として十三日 態系などの研究を統合 特別講演会「九頭竜 する場を県立大が担 川 探求の旅 ヒト・ い、在野の研究者や既 立大も川沿いにあるこ

とから記念事業のデー マに選んだ。

十日に県庁で記者会 見した県立大の北條蓮 英教授（まちづくり 論）は「九頭竜川にま つわる古い言い伝えや 文化を掘り起こしつ つ、産卵で戻ってくる サクラマス大切にす るなど具体的に川とか かわる場をつくりた い」と話した。

特別講演会は十三日

（梅野光春）

県立大学は10日、創立20周年記 念事業の一環として、福井を代表 する九頭竜川について、自然環境 や文化的な視野で幅広く探る「九 頭竜川プロジェクト」を立ち上げ たと発表した。13日には福井キャンパスで講演会が行われる予定 で、参加者を募集している。

県立大、創立20周年で研究

大では「九頭竜川は治水で百年、 利水で1千年の歴史を持つ。震災 など治水などに関心が高まる 中、母なる川を見直すことは意義 深い」としている。

「九頭竜川プロジェクト」始動

今後、シンポジウムなど各種イ ベントを開催するほか、問題点に ついては研究会の設置なども視野 に入れる。13日に行われる講演会

取り組む安田龍司さんによる講演 も行われる。

参加無料で定員200人。問い 合わせは県立大大学戦略室（☎0 776・61・6000）。

産経新聞 2012年10月11日掲載

中日新聞 2012年10月11日掲載

九頭竜川の講演会

■福井県立大学 同大福 井キャンパス（永平寺町） で13日、特別講演会「九頭 竜川 探求の旅」を開く。 同大創立20周年記念事業と して立ち上げた九頭竜川プ ロジェクトの一環。テーマ は「サクラマスが教えてく れたこと」「歴史の中の九 頭竜川」「川とのつきあい 技術」との3件。聴 講無料。問い合わせは大学 戦略室（☎0776・61 ・6000内1055）へ。

日本経済新聞 2012年10月11日掲載

九頭竜川の 保全や研究へ

県立大で創立
20周年記念事業

県立大の創立二十周年記念事業「九頭竜川プロジェクト」の旗揚げとなる特別講演会

「九頭竜川 探求の旅」が十三日、永平寺町松岡兼定島の県立大福井キャンパスであり、約百十人が聴講した。

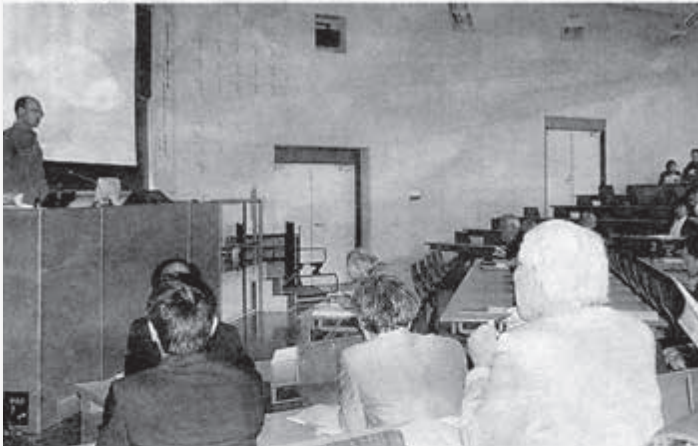
九頭竜川のサクラマス等の保全活動をするグループ「サクラマスレステレシジョン」の安田龍司代表、流域の歴史に詳しい松浦義則福井大名教授、民俗学



九頭竜川の歴史を語る松浦義則名誉教授＝永平寺町の県立大福井キャンパスで

の視点からアプローチしてきた元県立歴史博物館副館長の坂本育男さんの三人が登壇。それぞれの切り口で、九頭竜川を語った。松浦名誉教授は永平寺町松岡地区に残る前方後円墳などから、五世紀ごろの同地区は、一帯の中心地だったと考えられると解説。江戸時代には、利水のため鳴鹿大堰を、水運

九頭竜川を環境や歴史、民俗の分野から探求した特別講演＝13日、永平寺町の県立大福井キャンパス



論は「今後はJR福井駅周辺で丸一日開き、講演の数も増やすなど、プロジェクトをより発展させて『九頭竜川学』を展開させたい」と話していた。
(梅野光春)

日刊県民福井 2012年10月14日掲載

環境や歴史から 九頭竜川を探求

県立大プロジェクト始動

県立大は13日、九頭竜川を多方面から研究し、古里を見つめ直す創立20周年記念事業「九頭竜川プロジェクト」をスタートさせた。特別講演を永平寺町の福井キャンパスで行い、環境、歴史、民俗の3分野から九頭竜川を探求した。

プロジェクトは、農業、

産業、文化、宗教などの面から九頭竜川を幅広く掘り下げていく。期間は区切らず、個別に行われている研究を支援しながら広域的に取りまとめ、体系化したい考え。特別講演では3人が講師を務め、約110人が傍聴した。

釣り人グループ「サク

ン」の安田龍司代表「名古屋市」は、サクラマスの生態系調査や産卵場作りなどの活動を紹介。「生物は進化や新しい種が誕生する可能性を秘めている。環境に悪影響を与えないよう、人間は最大限配慮しないといけない」と訴えた。

福井大の松浦義則名誉教授は九頭竜川の渡し船や川舟運送の歴史などを解説。坂本育男・元県立歴史博物館副館長は、川の漁法や漁具、民具などについて話した。

福井県立大学創立20周年記念事業

九頭竜川 探求の旅

ひと・歴史の〈つながり〉を求めて

出典：中村健夫写真集「空の散歩道」永平寺町」（2007年）

本学は今年創立20周年を迎えました。ホームカミングデーに合わせて、九頭竜川プロジェクトによる特別講演会を開催します。

川は、あるものと別のものとを〈隔てる〉と同時に〈つなぐ〉ものです。自然環境の保全では、森や川に加え、海、里、人との〈つながり〉を視野に入れることが不可欠です。

また日本の歴史に目をやると、九頭竜川流域は、中心たる畿内にとって長らく周縁の地でした。ですが周縁でありながら、歴史の節々では、まさにその周縁を経由することで、中央に大きな変革をもたらしてきました。九頭竜川流域は中央と地方とを〈つなぎ〉続けてきました。

さらに川にははるか昔から流域に生きる人びとの暮らしをつないできました。舟によって川上と川下、両岸の人びとが空間的につながり、また川から広がる盆地世界は、日本の農村社会の原風景として世代を越えた〈つながり〉を与えてきました。

九頭竜川とその流域を発端として、多様なひとやものごとの〈つながり〉を視野に入れながら、私たちが生きる世界を捉え直す試みに、ぜひご参加ください。

日時 2012年**10**月**13**日(土)
10:00~12:00

場所 福井県立大学福井キャンパス
共通講義棟L108教室

定員 200名

聴講ご希望の方は、裏面用紙を利用し申し込みをお願いします。

九頭竜川プロジェクトとは

福井のシンボルである九頭竜川を中心に、それにまつわる歴史、民俗、宗教、文学、環境、地域社会をめぐる研究や活動を支えるのが九頭竜川プロジェクトです。研究や活動の成果発表の場の提供とともに、異なる分野の人びとの結び目になるようなネットワーク作りを目指します。



プログラム

【開会挨拶】 下谷 政弘 学長

【講演】

- サクラマスが教えてくれたこと 安田 龍司 氏
- 歴史のなかの九頭竜川 松浦 義則 氏
- 川とのつきあいー技術と思いー 坂本 育男 氏

【まとめ】 北條 蓮英 春風社学部長教授

講師からひとこと

サクラマスが教えてくれたこと

サクラマスレストレーション代表
安田 龍司 氏

山と海とを行き来するサクラマス。その自然再生のための活動が続けるなかで、見えてきた九頭竜川の現状と可能性。気候変動が予測されるなか、九頭竜川に棲む多様な生命、それらの連続性を守るために、自分たちが何ができるか？



歴史のなかの九頭竜川

福井大学名誉教授
松浦 義則 氏

「河川くすねがわ」と称されたこの川と対峙した流域民の姿、戦国時代の山の国の製品輸送と開拓、農業用水をもたらす暗渠(大堰)の地盤における重要性、村々をつなぐ運河、川での生業などについて述べてみたい。



川とのつきあいー技術と思いー

元 福井県立歴史博物館 副館長
坂本 育男 氏

かつて九頭竜川に多くの魚が遡上した。川で人々はさまざまな方法で魚を捕り、山麓に暮らす村で生み出した。独特な工法などさまざまな漁の技術と川辺の暮らしを見、さらに県界への通路としての川を見る。



お問い合わせ・お申し込み先
 福井県立大学 大学戦略室 TEL: 0776-61-6000 FAX: 0776-61-6011 E-mail: fpu-keiei@fpu.ac.jp
 主催 福井県立大学 後援 福井市、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、NPO法人 ドラゴンリバー交流会